

# 大館北秋田地域林業成長産業化協議会

## 第17回部会

### 協議記録

日時：令和4年2月25日（金）10：00～12：00

会場：BURLEY's CLUB（バーリーズクラブ）



大館北秋田地域林業成長産業化協議会 第17回部会 出席者名簿

大館北秋田地域林業成長産業化協議会会員

番号	区分	所属	役職	氏名	備考
1	森林組合	大館北秋田森林組合	森林整備課長	阿部 昌宏	
			大館比内支所係長	畠沢 健志	
2	素材生産者	(有)阿部林業			欠
3		(有)畠山造林	代表取締役	佐藤 四郎	
4		(有)花田造材部			欠
5		(有)伊東農園	部長	佐藤 保	
				伊東 裕祐	
6		(有)新林林業	総括部長	赤石 勝正	
7		(有)山田造材部	総務	菊池 和俊	
8		山一林業(株)	代表取締役	松橋 誠	
9		石上木材			欠
10		小林林業			欠
11		(有)佐栄林業			欠
12		(有)中田工業			欠
13		(株)石川組	代表取締役社長	島崎 祐男	
14	苗木生産者	秋田県山林種苗協同組合北秋田支部	支部長	黒澤 良勝	
15		農事組合法人上仏社営農組合			欠
16	製材・加工事業者	遠藤林業(株)			欠
17		(株)沓澤製材所	代表取締役	沓澤 一英	
18		九島木材(株)			欠
19		藤島木材工業(株)、藤島林産(株)			欠
20		ニツ井パネル(株)	社長	鈴木 稔	
21		古河林業(株)	秋田工場 工場長	藤島 勉	
22		ティンバラム(株)	五城目工場 工場長	高橋 聡	
23	木材需要者	大館曲げわっぱ協同組合	理事長	柴田 昌正	
24	木質バイオマス事業者	北秋容器(株)			欠
25		ポルター秋田(株)	経営企画部長	花田 元	
26		K S ウッドソリューション(株)	代表取締役	佐藤 真二	
27	木材流通事業者	物林(株)	資材グループ長	田口 慎二	Web参加
			盛岡営業室長	関口 祐之	
28	学識経験者	秋田県立大学木材高度加工研究所	准教授	足立 幸司	
29	市村	大館市	産業部林政課長	古川 泰幸	
			産業部林政課長補佐	小棚木 信晴	
			産業部林政課木材産業係長	北林 諭	
			産業部林政課木材産業係主任主事	千葉 泰生	
			産業部林政課木材産業係職員	安部 千夏	
			産業部林政課森林整備係主査	安保 貴洋	
30	北秋田市	北秋田市	産業部農林課林業振興係副主幹	藤田 学	
			産業部農林課林業振興係主事	長岐 英泰	
31	上小阿仁村	上小阿仁村産業課係長	田中 孝		

大館北秋田地域林業成長産業化協議会委託事業者

番号	名称	役職	氏名	備考
1	森林資源バイオエコノミー推進機構株式会社	所長	高田 克彦	

大館北秋田地域林業成長産業化協議会オブザーバー

番号	区分	所属	役職	氏名	備考
1	行政機関	米代東部森林管理署	署長	一ノ宮 秀和	Web参加
			森林技術指導官	佐々木 英樹	Web参加
米代東部森林管理署上小阿仁支署		上小阿仁支署長	菅原 健一	Web参加	
		森林技術指導官	菅原 実	Web参加	
3	秋田県農林水産部	主幹	木村 明憲		
4	秋田県北秋田地域振興局	副主幹	岩谷 司		

第 1 7 回部会では、「各市村説明（令和 3 年度事業・令和 4 年度主要事業）」、「協議会説明（令和 3 年度事業・令和 4 年度以降について）」について説明し、意見交換を行いました。

【協議内容】

1 開会

2 あいさつ要旨<古川事務局長>

- ・第 1 7 回部会は当協議会が取り組んできた「林業成長産業化地域創出モデル事業」における最後の部会となる。5 年間、誰一人欠けることなく、大館北秋田地域が一体となって取り組んできたことは、大きな成果になったのではないかと考えている。安定した事業運営ができたことは、会員の皆様の尽力があつてのことと思っており、感謝申し上げたい。
- ・本日は各市村および協議会の令和 3 年度事業の実施状況報告と令和 4 年度以降の取り組みについて説明するほか、総務部会より大館市有林を活用した協定フィールドでの森林整備及び木材販売の実績についても報告を予定している。説明終了後の意見交換では今後の当地域の林業・木材産業の更なる発展に向けた前向きな発言をいただきたい。
- ・来年度以降も引き続き当協議会の会員として継続する方もいれば、今年度をもって退会予定の方もいるが、大館北秋田地域にいる限りは、どのような立場になっても密接に関わりあう存在だと思っている。今後も様々な関係者と切磋琢磨しあいながら、当地域の林業・木材産業を盛り上げていきたいと考えている。

3 協議案件

(1) 各市村説明（令和 3 年度事業・令和 4 年度主要事業）

①大館市

<事務局（大館市）>

【令和 3 年度事業】

○木材産業係担当事業

- ・新型コロナウイルス感染症に係る支援策の執行状況、各種補助事業の執行状況、木材振興に係る取組状況について報告。
- ・住宅金融支援機構制度「【フラット 3 5】地域連携型」の適用開始のほか、各種報告会への参加状況について報告。

○森林整備係担当事業

- ・森林経営管理制度の進捗状況として、意向調査の回答状況、森林経営管理権集積計画の設定及び森林経営管理実施権配分計画の設定について報告。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響によるイベント関係の中止状況のほか、市有林の間伐等事業や林業専用道整備事業（県営事業）の実施状況について報告。
- ・補助事業の執行状況のほか、大館市森林整備計画の変更や特定間伐等促進計画の策定について報告を行った。

【令和 4 年度事業】

○木材産業係担当事業

- ・地域材利用促進事業の新規事業として、大館市森林づくり講演会の後継事業として、10月8日の木の日に開催する「大館市木材利用促進講演会」の関連予算を計上したほか、東京2020大会の選手村ビレッジプラザ提供木材の後利用事業関連予算を計上。木製ストロー普及促進に関する取組も予定している。
- ・林業成長産業化総合対策費の新規事業として、大館市有林における森林認証（SGEC-FM）取得予算のほか、林業事業者向けの新規就業者雇用人材育成支援に係る予算を計上した。
- ・地域林政アドバイザー事業費の新規事業として、令和5年度～14年度を計画期間とする新たな大館市森林整備計画の樹立に向けた計画策定支援事業と大館市有林における森林認証（SGEC-FM）取得審査の支援事業について予算を計上した。

○森林整備係担当事業

- ・林道の維持補修工事費、市有林の間伐等事業、再造林推進補助金について継続して予算化している。
- ・森林経営管理事業について、令和4年度の意向調査予定区域は田代地域の比立内区域、岩野目区域、菅谷地区を予定している。新規事業としては、航空レーザ成果を用いた森林資源解析事業のほか、森林3DレーザシステムOWL購入の関連予算を計上。

②北秋田市

<事務局（北秋田市）>

【令和 3 年度事業】

○川上分野について

- ・市有林間伐等事業、林道整備事業の実施状況について報告。

○経営管理制度について

- ・前山・黒沢地区、小森地区、七日市地区での意向調査の実施状況や集積計画の作成状況について報告。

○その他

- ・森林体験学習事業や北鷹高校との連携事業（森林・木材活用地域連携事業）の実施状況について報告。東京都国立市との「都市と山村の友好の森事業」についてはコロナウイルス感染症拡大防止のため市内小学生のみで植林体験を実施したことを報告。

【令和 4 年度事業】

○川上分野について

・市有林については 3 箇所での事業（間伐、主伐、下刈）を予定。林道整備事業については 6 箇所での開設等事業を予定している。

○経営管理制度について

・意向調査については栄・向黒沢地区を予定している。集積計画については令和 3 年度に意向調査を実施した地区での作成を予定している。

○その他

・チェーンソーアート競技大会を開催予定だが、開催日は未定。都市と山村の友好の森事業、森林体験学習、森林・木材活用地域連携事業については引き続き実施予定。

③上小阿仁村

<事務局（上小阿仁村）>

【令和 3 年度事業】

○造林造材事業

・村有林の下刈及び搬出間伐を実施した。

○路網整備事業

・林業専用道（規格相当）仏社国見沢線については降雪・積雪により次年度へ繰越予定。  
・林業専用道多々羅八森沢線（県営事業）については、昨年 1 2 月 2 4 日に引渡しを受けた。

○森林環境譲与税関係

・意向調査について、小沢田・福館・堂川・大林・南沢の 5 地区全域と沖田面地区の一部区域で実施した。資料は 2 月 1 0 日での実績で示しているが、昨日（2 月 2 4 日）現在では、回答数は 2 7 1 人、回答率 7 1. 8 8 %となっている。  
・森林情報デジタル化推進事業については秋田県へ負担金支出予定。

○その他

・村有林の森林管理認証について約 2 千 h a、令和 8 年 1 2 月までの期間で更新した。

【令和 4 年度事業】

○造林造材事業

・下刈、保育間伐、搬出間伐・森林作業道開設を予定。

○路網整備事業

- ・ 林業専用道多々羅八森沢線（県営事業）について継続。

○森林環境譲与税関係

- ・ 意向調査について令和3年度に引き続き沖田面の一部を実施予定。来年度で村内全体の意向調査が完了する見込み。
- ・ 森林情報デジタル化推進事業については継続。

○その他

- ・ 林業関係担い手対策事業として林業大学校研修生支援、林業関係新規就業者支援、林業担い手地域おこし協力隊の募集について予定している。
- ・ 森林整備促進対策事業の拡充を予定している。

<森林資源バイオエコノミー推進機構(株)>

- ・ 3市村で共通する事項として、森林経営管理制度については全国の市町村で取り組んでいるが、加速度を上げて取り組んでいく必要があると考えている。いつになるかは分からないがどこかのタイミングで制度の進捗や森林環境譲与税の使い方についてチェックが必ず入ると思う。地域で切磋琢磨して進めている姿を見せながら、仕事をどんどん前に進めていってほしい。

**（2）協議会説明（令和3年度事業・令和4年度以降について）**

<事務局（大館市）>

**【令和3年度事業】**

○協議会の取組状況について（11月～2月）

- ・ 第17回部会、午後からのRINSEIKYOセミナーをもってモデル事業としての活動は最後となる。

○主要事業・重点プロジェクト関連事業の実施状況

- ・ 林業・木材産業関係資格取得旅費支給、「地域内エコシステム」モデル構築事業の取り組みについて報告。

○令和3年度協議会主要予算

- ・ 執行率94%となった。

○今後の予定について

- ・ 「地域内エコシステム」モデル構築事業の成果報告会において、発表動画が3月末まで配信される予定。

- ・大館市主催の「WOOD CHANGE! ODATEウェビナーシリーズ」について3月22日にモデル事業関連の取り組みについて報告予定。
- ・東北の林業成長産業化地域が集まるサミットについては、福島県南会津町を主催地として4月12日に開催を予定。

#### ○令和3年度協定フィールドの施業について

- ・総務部会の尽力もあり無事作業を完了することができた。
- ・原木販売実績として約5千m<sup>3</sup>となった。ウッドショックの影響を考慮し、今年度はなるべく地元工場に優先的に供給するよう配慮いただいた。
- ・事業費について見積時の金額と精算見込みの金額についてまとめた。結果的にウッドショックの影響で見積時より数倍上がっている状況。3カ年の還元額についてもまとめてみたが、いずれも見積時より数倍上がっているため、通常時でもこんなに違いが出てしまうのかという点について、総務部会部会長からも補足説明いただきたい。

#### <総務部会 部会長>

- ・見積と実績の乖離について通常時は4～5倍になることは無く、コロナウイルス感染症の影響もあり、見積時点では低い金額で積算せざるを得なかった。3カ年の還元額の間伐実績の数値を見ても令和元年度と令和3年度の1m<sup>3</sup>当たりの単価が約2倍になっていることから丸太単価の上昇が結果に大きく反映しているものと考えられる。
- ・令和3年度の取り組み内容、課題・反省点、工夫した点などについて報告。林業専用道が令和3年7月に竣工し、竣工後すぐに利用できたことで、作業期間の短縮につながったと思う。

#### <総務部会 部会長>

- ・3年間の振り返りについて説明。
- ・再造林の実績につなげることができた。令和元年度、2年度は平坦な現場、令和3年度については急峻な現場で両極端な取り組みとなった。
- ・直営で実施した間伐については令和元年度と令和3年度の経費を比較したところ、3倍ほどの差があった。
- ・3年間を通じて今後を活かせる取り組みの連続ではあったが、現場を進めることに手一杯となり、結果をあまり振り返ることが出来なかった。データを整理して今後の事業に役立てていきたい。

#### <総務部会 副部会長>

- ・令和3年度の取り組み内容、課題・反省点、工夫した点などについて報告。ウッドショックの影響で原木不足が発生したため、昨年度に比べて地域内への供給量が増えた。協定フィールドにおいて夏場の伐採が初めてであったため、虫害を出さないようスケジュールを入念に管理した。

＜事務局（大館市）＞

・総務部会からの説明で「所有者にほとんど負担を求めずに皆伐再造林を実施できる現場は限られてくる」とあったが解説をお願いしたい。

⇒＜総務部会 部会長 大館北秋田森林組合＞

・間伐の例で令和元年度と令和3年度の経費が3倍ほどの差があったことを踏まえると、現場状況でここまで変わってしまう、という実感である。よって、主伐・再造林を実施する現場の選定が必要だと感じた。

○森林所有者向けパンフレットデザイン作成について

・事業者紹介ページについて対象者に記載内容について照会中。期限までに回答をお願いしたい。

・部会終了後にデザインを会員の皆様に共有し、意見聴取したいと考えている。

（質疑応答）

＜再造林推進部会 副部会長＞

・令和3年度協定フィールドについてはウッドショックの影響で売値が上がったことで収支を合わせることができた、という感覚。平年であれば赤字だったのでは。今後の事業を検討する際は収支の合う現場の選定が求められるのではないかと。

・伐採の適期を誤るとせっかく育てた山の価値が下がってしまう。林齢だけで機械的に伐採期を決めるのではなく、立木の成長度なども勘案しながら計画づくりを進める必要があると思う。

⇒＜森林資源バイオエコノミー推進機構(株)＞

・採算を得るために現場を選定するのは重要な事だが、森林所有者にいくら還元できるか、という観点で考えると、この現場だから還元できません、ではなく、この現場でも還元できるように効率的な作業を検討しよう、ということ素材生産事業者として考えていく必要があると思う。

・今回は協定フィールドとして大館市有林を活用したが、行政にとっては現場の選定や作業の組み立て方まで考慮しての判断というのはなかなか難しかったのではないかと。意見内容を踏まえると、今回見えた課題を認識したうえで、来年度以降も協議会で議論していただき、改善していくことが望まれる。

⇒＜事務局（大館市）＞

・採算のとれる森林をどのように判断していくかという意味では、森林経営管理制度にもつながる意見だと認識した。市有林だけでなく、私有林も含めて考えていく必要があるため、引き続き皆さんと協議していきたい。

【令和 4 年度以降の取り組み】

○今後の取り組みに関するアンケート調査結果の解析及び所見

＜森林資源バイオエコノミー推進機構(株)＞

- ・アンケート結果を踏まえて、川上・川中・川下のそれぞれで課題認識の相違点があることが分かり、これをベースに分析を行った。
- ・地域の将来、長期的な課題に対応していくためにも名称は何であれ、川上／川中／川下の企業が参加する業界横断型の組織は必要と考える。5年間取り組んできて何も残らなかったのであれば必要ない、ということになるかもしれないが、色々な諸事情があったとしても何かしらの成果をシーズとして、次の取り組みを考えていけば良いと思う。

○令和 4 年度以降の協議会について

＜事務局（大館市）＞

- ・令和 4 年度への移行にあたっての手続き等の説明、新規加入希望者及びオブザーバー予定者の紹介、運営方針、取組の方向性について説明。

（3）意見交換

＜再造林推進部会 部会長＞

- ・令和 4 年度以降について、協議会名称に「北秋田」を入れている意図、オブザーバーに教育機関が加わる経緯、来年度の協定フィールドの予定について伺いたい。

⇒＜事務局（大館市）＞

- ・協議会名称について、エリアは大館市となるが、継続される会員の所在地としてはこれまでの 3 市村の枠組みと変わらないことから同じ名称としている。
- ・教育機関については、大館北秋田地域内に学校があることや、同校の取り組みとして木材利用に力を入れていることなど、連携できる面が多いと判断し、参加を呼びかけたところ。
- ・協定フィールドについては、モデル事業期間中での実施として計画したため、来年度については現時点で計画はない。次年度以降も同じような形で実施していく場合は、令和 4 年度の新たな体制で再度協議したいと考えている。

＜秋田スギ・認証材利用促進部会 副部会長＞

- ・大館市有林の森林認証の取得面積やスケジュール感を教えていただきたい。大阪万博も控えており、需要が発生した際の対応を考慮すると早めの準備が必要だと思う。
- ・新規加入希望者を見ると内向きなメンバー構成に感じた。昨今の木材市況や流通状況を考えるとこの地域だけでなく外の地域との情報交換が必要ではないか。
- ・SDGs といった世界的な大きな目標がある中で、協議会としての大きな目標設定が必要ではないか。それが無いといざ集まっても何をやるのか、という状況になってしまうのではないか。

⇒<事務局（大館市）>

・森林認証については今夏の取得を考えている。面積については確定していないが、現在の市の森林経営計画上の管理面積は約2,300haとなっている。地元との分収造林なども含まれているため、財産管理担当課と協議したうえで森林認証の対象とする面積を固めていきたい。

・新規加入希望者についてほぼ地域内関係者である。ウッドショックの影響で住宅事業者も国産材の活用について考え直したいという意識の表れと認識している。当協議会は地域内に限定しているわけではないため、地域外関係者については紹介という形での参画も考えられるのではないかと思う。

・SDGsに関連して、大館市は2050年までに二酸化炭素排出実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ宣言」を行っている。協議会においてもこの宣言と連動した活動を検討していければと考えている。

⇒<森林資源バイオエコノミー推進機構(株)>

・地域外関係者の参画は良いかと思うが、まずは協議会としての目標・目的を共有したうえで、それに賛同してくれる方を迎える、というのが順番だと思う。

<秋田スギ・認証材利用促進部会 部会長>

・協議会がスタートした前提として「循環の輪」や「安定供給」といったキーワードで始まったと思う。自身も国産材に関して色々考えてみたり、新たな取り組みを試してみたりしてきたが、協議会の中で議論してきたことが発想につながり、実際に動いてみる、という原動力になったことは間違いないと感じており、今後もそのような推進力とか後押しするような組織になっていくことを期待したい。

・川中の関係者としての反省点としては、前に進める議論ができなかったという感覚がある。プロジェクトや協業体制がないと川中の推進は難しいと感じている。

・サプライチェーン構築や循環の輪を作っていこうという目的でスタートした協議会であることから、継続するにあたっては、よりつながりを強くしていくような組織、取り組みになることを要望していきたい。

⇒<森林資源バイオエコノミー推進機構(株)>

・何もできない協議会であればやる必要はないと感じている。プロジェクトや協業が生み出されるような形になっていくことが協議会の一つの目標だと思う。

・地域外からも参画いただいたが、将来的な取り組みという観点で意見をいただきたい。

⇒<総務部会 副部会長>

・協議会メンバーから求められたこととして域外消費に期待を寄せられていたという認識。スポット的な需要ではなく、継続的な需要につなげるというところを目指していく必要があると感じている。

#### 4 講評

＜アドバイザー 秋田県立大学木材高度加工研究所 足立 氏＞

- ・ 5年間の事業を走り切ることができ、次の展開に結びついたということが大変嬉しく感じている。
- ・ 今日の部会も川上から川下まで様々な意見をいただいたが、協定フィールドの取り組みを通じて新しい展開ができたということはプラスになったと思う。
- ・ 川上に関しては、安全講習や人材育成等着実に取り組まれており、今後の事業の広げていく上でも今後もぜひ注力していただきたいと感じた。
- ・ 川中に関しては、今後、流域内で丸太の需要が爆発的に増加することが分かっている中で、長期的に森林をどのように経営していくか、長期的にどのような丸太が欲しいか、ということについて、引き続き情報交換を行っていただきたい。
- ・ 川下については、住宅着工数が減少している中ではあるが、今後、需要サイドとして地域の工務店等が多く加入するということで、新しい需要に耳を傾けて、皆さんでどうしていくかということをお話し合っただけで対応していくことを期待したい。

～ 閉 会 ～

# 大館北秋田地域林業成長産業化協議会 R4.2.25 第17回部会

